

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-247431

(43)公開日 平成6年(1994)9月6日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 C 3/02		9146-3E		
B 4 1 J 3/407				
3/36				
21/00	Z	8703-2C		
		8403-2C	B 4 1 J 3/ 00	F
			審査請求 未請求 請求項の数 2	FD (全 10 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平5-55054

(22)出願日 平成5年(1993)2月18日

(71)出願人 000005267

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号

(72)発明者 広野 和久

名古屋市瑞穂区苗代町15番1号 ブラザー

工業株式会社内

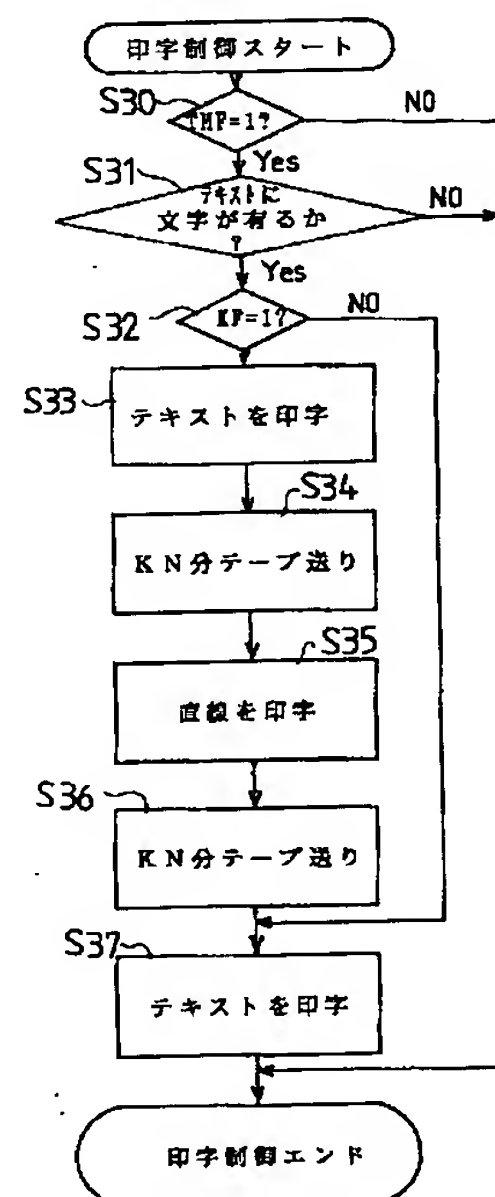
(74)代理人 弁理士 山中 郁生 (外2名)

(54)【発明の名称】 コード用ラベル作成装置

(57)【要約】

【目的】 簡単な操作により各種の電源コードの太さに合致する巻代を形成することを可能とするとともに、各コードに対して取付易いコード用ラベルを作成可能なコード用ラベル作成装置を提供する。

【構成】 コード用ラベルをコードの周囲に巻き付ける際に、コードの太さに対応して必要な巻代を設定するとともに巻代の両側にテキストを印字し(S33, S34, S36, S37)、更に、かかるテキストの印字時に巻代の中間位置にラベルの幅方向に直線を印字するように構成する(S35)。これにより、極めて簡単な操作により各種の電源コードの太さに合致する巻代を形成したコード用ラベルが作成され得るとともに、各種のコードに対して取付が簡単、且つ、確実なコード用ラベルを作成され得る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 コードの周囲に巻き付けた状態で使用されるコード用ラベルと、文字等の文書データよりなるテキストを作成するテキスト作成手段と、テキスト作成手段により作成されたテキストのテキストデータを記憶するテキストメモリと、テキストメモリに記憶されたテキストデータに従ってコード用ラベル上に文字等の印字を行なう印字手段とを有するコード用ラベル作成装置において、

前記コード用ラベルをコードの周囲に巻き付ける際に、コード用ラベルに必要な巻代を設定する巻代設定手段と、

前記テキスト作成手段により作成されたテキストに基づき前記印字手段を介して前記巻代設定手段により設定された巻代の両側に前記文字等の印字を行なうべく印字手段を制御する印字制御手段とを備えたことを特徴とするコード用ラベル作成装置。

【請求項2】 前記印字制御手段は前記巻代設定手段により設定された巻代の中間位置でラベルの幅方向に直線を印字するよう前記印字手段を制御することを特徴とする請求項1記載のコード用ラベル作成装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は電源コード等に巻き付けた状態で取り付けられ、電源コードを識別するために使用されるコード用ラベルを作成する作成装置に関し、特に、簡単な操作により電源コード等に取り付け易いコード用ラベルを作成可能なコード用ラベル作成装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】一般に、コンセントやOAタップ等に接続する電源コードが多い場合には、各電源コードの種類が見易いように区別できれば便利であり、かかるコードの区別を容易にするために従来からコード用ラベルを各電源コードに貼付することが行なわれている。

【0003】従来、この種のコード用ラベルとして使用可能なものが種々提案されており、かかるラベルを作成可能な装置としては、例えば、実開平1-72361号公報、特公平4-43788号公報、特公平4-43792号公報等に記載されているテープ印字装置が存在する。このテープ印字装置は、透明フィルムテープの裏面にコード名等の文字の印字を行なった後、そのフィルムテープの印字面に剥離紙付の両面粘着テープを貼着し、文字付のテープを作成するように構成されている。このように作成された文字付テープは剥離紙をフィルムテープから剥した後、粘着テープの粘着面を電源コード等に巻付けて使用されるものである。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところで、前記コード用ラベルは電源コードに巻き付けて使用されるものであ

ることから、コードの太さを考慮して適切な巻代を形成するとともに、コードの種類を容易に確認可能にすべく、その巻代の両側にコードの名称等を表わす文字等を2箇所印字する必要がある。しかしながら、前記従来のテープ印字装置では、前記のようなコード用ラベルを作成するための特別の機能を有しておらず、特に、種々存在するコードの太さに対応する巻代を簡単な操作で設定する手段は具備していない。従って、このようなテープ印字装置を使用してコード用ラベルを作成するには、キーボードを介してコードの名称等を表わす文字等の2つのテキストを作成し、これらの各テキスト間に任意的に複数個のスペースを挿入してコードの巻代を形成するようにしていた。

【0005】このように形成された巻代は、操作者が予めコードの太さを考慮して形成するものではあるが、作成された巻代を各コードの太さに合致させることは極めて困難である。従って、作成したコード用ラベルを実際に各コードに巻き付けてみて巻代がコードの太さに合致しない場合には、再度各テキスト間に挿入するスペースの個数を変えてラベルを何度も作成し直す必要があった。このように前記従来のテープ印字装置によっては、コード用ラベルを作成することが困難であり、また、ラベルを何度も作成し直す作業は煩雑であるとともに、ラベルの材料を浪費してしまう問題もあった。

【0006】本発明は前記従来技術の問題点を解消するためになされたものであり、極めて簡単な操作により各種の電源コードの太さに合致する巻代を形成することを可能とするとともに、各コードに対して取り付け易いコード用ラベルを作成可能なコード用ラベル作成装置を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するため本発明は、コードの周囲に巻き付けた状態で使用されるコード用ラベルと、文字等の文書データよりなるテキストを作成するテキスト作成手段と、テキスト作成手段により作成されたテキストのテキストデータを記憶するテキストメモリと、テキストメモリに記憶されたテキストデータに従ってコード用ラベル上に文字等の印字を行なう印字手段とを有するコード用ラベル作成装置において、前記コード用ラベルをコードの周囲に巻き付ける際に、コード用ラベルに必要な巻代を設定する巻代設定手段と、前記テキスト作成手段により作成されたテキストに基づき前記印字手段を介して前記巻代設定手段により設定された巻代の両側に前記文字等の印字を行なうべく印字手段を制御する印字制御手段とを備えた構成とされる。また、前記印字制御手段は前記巻代設定手段により設定された巻代の中間位置でラベルの幅方向に直線を印字するよう前記印字手段を制御する構成とされる。

【0008】

【作用】前記構成を有する本発明では、まず、テキスト

作成手段を介してコードの名称等に対応する文字等の文書データからなる1つのテキストが作成され、かかるテキストはテキストデータとしてテキストメモリに記憶される。次に、コードの太さを考慮してコード用ラベルの周囲に巻き付ける際に必要な巻代が、巻代設定手段を介して設定される。

【0009】この後、印字手段は印字制御手段により制御され、テキストメモリに記憶されたテキストデータに従ってコード用ラベル上で、巻代設定手段により設定された巻代の一方の側にテキストを印字し、続いて、テキストメモリに記憶されたテキストデータに従い前記巻代の他方の側にテキストが印字される。更に、巻代の中間位置でラベルの幅方向に直線を印字する場合もある。これにより、コード用ラベル上で巻代設定手段により設定された巻代の両側にコードの名称等に対応する文字等が印字されるとともに、巻代の中間位置でラベルの幅方向に直線が印字されるものである。

【0010】

【実施例】以下、本発明を具体化した一実施例に基づいて図面を参照しつつ詳細に説明する。図1はテープカセット収納部の収納カバーを開けて示すラベル作成装置の平面図である。図1において、ラベル作成装置1には、文字等のキャラクタを複数行に渡って入力し文書データ（コードデータ）からなるテキストを作成するための文字入力キー2、テキストの印字を指令する印字キー3、通常印字モードとラベル印字モードとを交互に切り換える印字モード切換キー4、液晶ディスプレイ7上で後述する印字モード表示とコード種類表示とを切り換えたり、また、コード種類表示とテキストモードとを切り換えるための選択キー5、液晶ディスプレイ7上でカーソルを上下、左右に移動させるカーソルキーC、及び、改行指令や各種処理の実行を指令するリターンキーR等が設けられたキーボード6、キーボード6から入力された文字等を表示する液晶ディスプレイ7及び後述するテープカセット13を収納するカセット収納部8が配設されている。ここに、文字入力キー2以外の各キーをファンクションキーと呼称する。

【0011】また、カセット収納部8には、図示しないバルスモータにより回転駆動され、テープカセット13のリボン巻取スプール21を回動してサーマルインクリボン17を巻取るリボン巻取軸9が立設されており、又、その斜め前方（キーボード6側）には、後述するテープ送りモータ40から適宜の伝達機構を介して回転駆動され、後述するテープ送りローラ27を回動するためのテープ送りローラ軸10が立設されている。更に、カセット収納部8の前方には、サーマルインクリボン17を介して後述するフィルムテープ15上に印字を行うサーマルヘッド11が固設されている。かかるカセット収納部8は、ラベル作成装置1の後方に回動可能に枢支された収納カバー12により開閉され、開状態でテープカ

セット13の交換等が行われる。

【0012】次に、テープカセット13の構成について図2を参照して説明する。図2はカセット収納部8にテープカセット13を収納した状態を示す平面図（テープカセット13は上ケースを除いて示す）である。図2において、下ケース14内には透明なフィルムテープ15が巻回されたテープスプール16、サーマルインクリボン17が巻回されたリボンスプール18、剥離紙付き両面粘着テープ19が剥離紙側を外側にして巻回された粘着テープスプール20が配設されており、これら各スプール16、18、20は図示しない上ケースの下面に設けられた支持部との協働により回転可能に支持されている。

【0013】また、各スプール16、18、20の間にリボン巻取スプール21が同様に回転可能に支持されており、かかるリボン巻取スプール21は前記したリボン巻取軸9に嚙合されリボン巻取軸9の駆動により印字で使用されたサーマルインクリボン17を巻取る。更に、前記したサーマルヘッド11は下ケース14に設けられた凹部22に配置され、このサーマルヘッド11にはローラホルダ23に回転可能に支持されたプラテンローラ24が圧接可能な位置に対向配置されている。かかるサーマルヘッド11は多数の発熱素子（本実施例に係るラベル作成装置1のサーマルヘッド11では128個の発熱素子が設けられている）を有しており、サーマルインクリボン17を介してフィルムテープ15に文字等の印字を行うものである。

【0014】また、下ケース14のテープ排出部25（図1、図2中左下側）の近傍にテープ圧接ローラ26が回転可能に支持され、このテープ圧接ローラ26にはローラホルダ23に回転可能に支持されたテープ送りローラ27が圧接可能な位置に対向配置されている。カセット収納部8において、テープカセット13の前方（図1、図2中下側）には、ローラホルダ23が支持軸28により回動可能に枢支され、このローラホルダ23は図示しない手動の切換機構により印字位置とリリース位置とに切換可能とされている（図1、図2は共に印字位置に切り換えられた状態を示す）。かかるローラホルダ23には、前記したプラテンローラ24及びテープ送りローラ27がそれぞれ回転可能に、且つ、ローラホルダ23が印字位置に切り換えられたときにサーマルヘッド11及び圧接ローラ26に対し圧接されるように配設されている。尚、テープ送りローラ27は前記したテープ送りローラ軸10により回転駆動され、同時に、圧接ローラ26は図示しないギヤ機構でテープ送りローラ27と連動して回転駆動される。

【0015】また、圧接ローラ26及びテープ送りローラ27は、これらが協働してサーマルヘッド11によりサーマルインクリボン17を介して文字等が印字されたフィルムテープ15に対し両面粘着テープ19の粘着剤

面を圧着し、最終的にテープTを作成するとともに矢印J方向にテープTを送り出すものである。尚、作成されたテープTはテープカセット13の左方側に配設されたカッタ（図示せず）により切断される。かかるカッタの構成については公知のものであるので、ここでは説明を省略する。

【0016】次に、このように構成されるラベル作成装置1の制御系について図3を参照して説明する。図3はラベル作成装置1の制御ブロック図を示し、制御装置30を核として構成されている。制御装置30はCPU31、ROM32、CGROM33、及び、RAM34からなり、これらはバス35を介して相互に接続されているとともに、入出力インターフェイス36にも接続されている。

【0017】ここに、ROM32は各種のプログラムを記憶しておくものであり、後述する基本制御プログラム、印字制御プログラム、その他ラベル作成装置1の制御上必要な各種のプログラムが記憶されている。そして、CPU31はかかるROM32に記憶されている各種のプログラムに基づいて各種の演算を行なうものである。また、ROM32には、多数の文字等のキャラクタのそれぞれについて、各キャラクタの輪郭線を規定する輪郭線データ（アウトラインデータ）が各書体（ゴシック系書体、明朝体系書体等）毎に分類されてコードデータに対応して記憶されている。更に、ROM32には、後述する電源コードの太さに対応してテープをコードの周囲に巻き付ける際に必要な巻代値（巻代の長さの値であり、巻代長の1/2の値であるKN値で記憶される）についての各種の値をテーブル化してなる巻代値の各種のデータが記憶されている。

【0018】また、CGROM33にはキーボード6から入力される各キャラクタに対応するドットパターンデータが記憶されており、ドットパターンデータがCGROM33から読み出されて展開された後、後述するイメージバッファ42に転送されるものである。更に、RAM34はCPU31により演算された各種の演算結果を一時的に記憶しておくためのものであり、かかるRAM34には図4に示すように各種のメモリが設けられている。

【0019】図4において、テキストメモリ41は、キーボード6から入力されたキャラクタに対応するコードデータを文書データ（テキスト）として記憶するものであり、また、イメージバッファ42は、テキストメモリ41に記憶されているテキストの文書データに対応してCGROM33から読み出されたドットパターンデータが展開されて記憶されるものである。更に、印字バッファ43は印字時にイメージバッファ42に記憶されたドットパターンデータが転送され記憶されるものであり、サーマルヘッド11はかかる印字バッファ43に記憶されているドットパターンデータに従ってドット印字

を行なうものである。また、巻代メモリ44は、電源コードの太さに対応して入力される巻代データ（後述する）を記憶するものである。

【0020】また、通常印字フラグ（TF）45は印字モード切換キー4を介して切り換えられた印字モードが通常印字モードである場合に「1」がセットされるフラグ、ラベル印字フラグ（KF）46は印字モード切換キー4を介して切り換えられた印字モードがラベル印字モードである場合に「1」がセットされるフラグ、テキストモードフラグ（TMF）47はテキスト入力モードである場合に「1」がセットされるフラグ、印字モード表示フラグ（IMF）48は液晶ディスプレイ7が印字モード（通常印字モードとラベル印字モード）を表示するモードになっている場合に「1」にセットされるフラグ、及び、コード種類表示モードフラグ（KMF）49は液晶ディスプレイ7が前記巻代データを設定する際にコード太さの種類を表示する場合に「1」がセットされるフラグである。

【0021】ここで、図3に戻って制御ブロック図の説明を続けると、キーボード6が入出力インターフェイス36を介して、また、液晶ディスプレイ7、ディスプレイコントローラ37が入出力インターフェイス36を介してそれぞれ制御装置30に接続されており、キーボード6の文字入力キー2を介して文字等が入力された場合、その文書データがテキストメモリ41に順次記憶されていくとともに、ドットパターン発生制御プログラム及び表示制御プログラムに基づいてキーボード6を介して入力された文字等に対応するドットパターンが液晶ディスプレイ7上に表示される。

【0022】また、サーマルヘッド11は駆動回路38を介して駆動され、前記イメージバッファ42から印字バッファ43に転送されたドットパターンデータの印字を行い、これと同期してテープ送りモータ40は駆動回路39を介してテープTの送り制御を行なうものである。続いて、前記のように構成されたラベル作成装置1の動作について図5乃至図7に基づき説明する。図5はラベル作成装置1の基本制御プログラムのフローチャートであり、電源スイッチがオンされると各種の初期設定が行なわれた後基本制御が開始される。かかる初期設定時に、通常印字フラグ45、テキストモードフラグ47が「1」にセットされるとともに、ラベル印字フラグ46、印字モード表示フラグ48、及び、コード種類表示モードフラグ49が「0」にリセットされる。

【0023】ステップ（以下、Sと略記する）1において、キーボード6上のいずれかのキーが操作されたかどうか判断され、キーが操作されていない場合（S1：NO）にはキーが操作されるまで待機する一方、キーが操作された場合（S1：YES）には印字モード切換キー4等のファンクションキーが操作されたかどうか判断される（S2）。ファンクションキーが操作されていない

場合(S2:NO)、テキストモードフラグ47が「1」にセットされているかどうか判断し(S3)、テキストモードフラグ47が「1」にセットされている場合(S3:YES)には文字入力キー2から入力された文字をテキストメモリ41に記憶した(S4)後S1に戻る。S1乃至S4の処理を繰り返して行なうことにより、電源コードの名称に対応する文字等のテキストが作成され、そのテキストが順次テキストメモリ41に記憶されていく。一方、S3にてテキストモードフラグ47が「1」にセットされていない場合(S3:NO)、液

晶ディスプレイ7上にエラー表示を行なった(S5)後S1に戻る。
【0024】前記S2においてファンクションキーが操作されたと判断された場合(S2:YES)には、S12以降のファンクションキーの処理に進み、S12にて印字モード切換キー4が操作されたかどうか判断される。印字モード切換キー4が操作された場合(S12:YES)、テキストモードフラグ47に「1」がセットされているかどうか判断される(S17)。テキストモードフラグに「1」がセットされてテキスト入力モードである場合(S17:YES)、印字モード切換キー4からのキー入力を有効化して液晶ディスプレイ7を印字モード表示に切り換え(S18)、更に、S19にてテキストモードフラグ47を「0」にリセットするとともに、印字モード表示フラグ48に「1」にセットした後、S1に戻る。これに対して、S17においてテキストモードフラグ47に「1」がセットされていない場合(S17:NO)、印字モード切換キー4からのキー入力を無効化して液晶ディスプレイ7にエラー表示を行なった(S27)後S1に戻る。

【0025】前記S12、S17、S18、及び、S19を介して、テキスト入力モードから印字モード表示に移行するものである。前記S12において、印字モード切換キー4が操作されていないと判断された場合(S12:NO)、カーソルキーCが操作されたかどうか判断される(S13)。カーソルキーCが操作された場合(S13:YES)、S20にて印字モード表示フラグ48が「1」にセットされているかどうか判断される。印字モード表示フラグ48が「1」にセットされていれば(S20:YES)、更に通常印字フラグ45が「1」にセットされているかどうか判断される(S21)。そして、通常印字フラグ45が「1」にセットされている場合(S21:YES)には、S22にて通常印字フラグ45を「0」にリセットするとともに、ラベル印字フラグ46を「1」にセットした後S23に移行する。一方、通常印字フラグ45が「1」にセットされていない場合(S21:NO)、前記とは逆に通常印字フラグ45に「1」をセットするとともに、ラベル印字フラグ46を「0」にリセットした(S28)後S23に移行する。S23では、前記S22又はS28にお

る処理に従って通常印字モードをラベル印字モードに切り換えるか、又は、逆にラベル印字モードを通常印字モードに切り換えた後、S1に戻る。

【0026】前記各S13、S20、S21、S22、及び、S28の処理を行なうことにより通常印字モードとラベル印字モードとが相互に切り換えられるものである。前記したS20において、印字モード表示フラグに「1」がセットされていない場合(S20:NO)にはS24に移行し、S24にてコード種類表示モードフラグ49に「1」がセットされているかどうか判断される。コード種類表示モードフラグ49に「1」がセットされている場合(S24:YES)、液晶ディスプレイ7上に電源コードの太さに対応する1つの巻代長(mm単位で表わされる)が、ROM32に記憶されている巻代値のテーブルから選択された1つのKN値として表示される。このとき、巻代長は、後述する印字制御処理上、巻代長の1/2の値であるKN値(図7参照)で表示される。そして、表示されたKN値を次の新たな値に更新するとともに(S25)、その更新したKN値を液晶ディスプレイ7上に表示した(S26)後S1に戻る。一方、S24にてコード種類表示モードフラグ49が「1」にセットされていない場合(S24:NO)には、コード種類表示モード以外の現在設定されているモードに対応する処理が行なわれた(S29)後、S1に戻る。尚、前記のように表示されたKN値は巻代メモリ44に記憶され、また、KN値が更新された場合には、その更新されたKN値が巻代メモリ44に更新して記憶される。

【0027】前記各S13、S20、S24、S25、及び、S26の処理を行なうことにより、液晶ディスプレイ7に表示される巻代長に対応するKN値が順次切り換えられていき、これと同時に巻代メモリ44に記憶されているKN値が順次更新されていく。前記S13において、カーソルキーCが操作されていない場合(S13:NO)には、S14にて選択キー5が操作されたかどうか判断される。選択キー5が操作された場合(S14:YES)、印字モード表示フラグ48が「1」にセットされているかどうか判断される(S6)。印字モード表示フラグ48が「1」にセットされている場合(S6:YES)、印字モード表示フラグ48が「0」にリセットされるとともに、コード種類表示モードフラグ49が「1」にセットされる(S7)。この後、液晶ディスプレイ7をコード種類表示モードに切り換えた(S8)後、S1に戻る。このように、S14、S6、S7、及び、S8の処理を行なうことにより、液晶ディスプレイ7は印字モード表示からコード種類表示モードに切り換えられるものである。

【0028】これに対して、S6において印字モード表示フラグ48が「1」にセットされていないと判断された場合(S6:NO)、コード種類表示モードフラグ4

9が「1」にセットされているかどうか判断される(S9)。コード種類表示モードフラグ49が「1」にセットされている場合(S9: YES)には、コード種類表示モードフラグ49を「0」にリセットするとともに、テキストモードフラグ47を「1」にセットする(S10)。これにて、テキスト入力モードに切り換えられ、液晶ディスプレイ7上にテキストメモリ41のテキストが表示された(S11)後、S1に戻る。一方、コード種類表示モードフラグ49に「1」がセットされていない場合(S9: NO)には、その操作されたキーに対応する処理が行なわれた(S16)後、S1に戻る。

【0029】前記S6、S9、S10、及び、S11の処理を行なうことにより、液晶ディスプレイ7はコード種類表示モードからテキスト入力モードに切り換えられるものである。前記S14において、選択キー5が操作されていない場合(S14: NO)、操作されたキーに応じた処理が行なわれた(S12)後、S1に戻る。例えば、印字キー3が操作されると印字制御の処理が行なわれる。続いて、ラベル作成装置1の印字制御について図6を参照しつつ説明する。図6は印字制御プログラムのフローチャートであり、かかる印字制御は印字キー3からのキー入力に基づいて開始される。先ず、S30にてテキストモードフラグ47に「1」がセットされているかどうか判断される。テキストモードフラグ47に「1」がセットされている場合(S30: YES)にはS31に移行する一方、「1」がセットされていない場合(S30: NO)には印字キー3からのキー入力を無効化して印字制御を終了する。

【0030】S31では、テキストメモリ41にテキストが存在するかどうか判断される。テキストメモリ41中にテキストが存在しない場合(S31: NO)には印字制御を終了する。一方、テキストメモリ41中にテキストが存在する場合(S31: YES)、ラベル印字フラグ46に「1」がセットされているかどうか判断し(S32)、ラベル印字フラグ46に「1」がセットされている場合(S32: YES)にはS33に移行するが、ラベル印字フラグ46に「1」がセットされていない場合(S32: NO)には、テキストを印字した(S37)後に印字制御を終了する。

【0031】S33では、サーマルヘッド11を介してテキストメモリ41中のテキストをテープ上に印字する。その後、巻代メモリ44からKN値を読み出し、読み出したKN値に従って巻代長の1/2だけテープを送る(S34)。そして、サーマルヘッド11を介してテープの幅方向に直線を印字する(S35)。この時点における印字サンプルが図7(A)に示されている。図7(A)は巻代Lの片側(図7(A)中、左側)にテキスト(この場合、テキストは「テレビ」である)を印字し、巻代Lの中間位置に直線1を印字した印字サンプルを示す説明図である。

【0032】次に、S36において、再度巻代メモリ44からKN値を読み出すとともに、そのKN値に従ってテープが巻代長の1/2だけ送られる。その後、再度テキストメモリ41のテキストがテープ上に印字される(S37)。この時点における印字サンプルが図7

(B)に示されている。図7(B)は、図7(A)の印字サンプルに加えて、巻代Lの右側にテキスト(「テレビ」)を印字した印字サンプルを示す説明図である。これにより、前記のように電源コードの太さに対応して設定された巻代Lの両側にテキストが印字されるとともに、巻代Lの中間位置にテープの幅方向に直線1が印字されてなるコード用ラベルが作成されるものである。このように作成されたコード用ラベルは、図8(A)、

(B)に示すように、電源コードCの周囲に巻き付けられて使用されるものである。ここに、前記のように巻代Lの中間位置に印字された直線1は、コード用ラベルを電源コードに巻き付ける際、巻き付け位置の基準となるものであり、通常、直線1は図8(A)、(B)に示すように、プラグPを水平位置に保持した状態でコードCの側部に位置決めされる。その後、ラベルは両面粘着テープ19の剥離紙を剥離して巻代Lによりコードの周囲に貼付されるとともに、巻代Lの両側におけるテキスト印字部を相互に貼り合わせるることにより、コードCに取り付けられるものである。このように取り付けることにより、ラベルに印字したテキストは、図8(A)、(B)に示すように、コードCの表側、裏側のいずれの側からでもコードの種別を容易に確認することができるものである。

【0033】以上詳細に説明した通り本実施例に係るコード用ラベル作成装置1では、コード用ラベルをコードの周囲に巻き付ける際に、コードの太さに対応して必要な巻代を設定するとともに巻代の両側にテキストを印字し、更に、巻代の中間位置にラベルの幅方向に直線を印字するようにしたので、極めて簡単な操作により各種の電源コードの太さに合致する巻代を形成したコード用ラベルを作成することができる。また、このように作成したコード用ラベルは巻代の中間位置に印字した直線を基準としてコードの周囲に巻き付けながら貼付すればよく、これにより各種のコードに対して取付が簡単、且つ、確実なコード用ラベルを作成することができ、更に、コードに取り付けられたラベルはいずれの方向からもコードの種類等を表わす文字等が見易く、コードの種類を容易に確認することができるものである。

【0034】尚、本発明は前記実施例に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内で種々の改良、変形が可能であることは勿論である。例えば、前記実施例では、ROM32に記憶されたテーブルから巻代値を読み出すとともに、その読み出された巻代値からコードの太さに対応する巻代値を選択、設定するようにしたが、巻代値はキーボード6上に設けられた数字キーを

介して直接設定するようにしても良いことは明かである。また、巻代値を設定するのではなく、コードの太さ（直径）を入力することにより、この直径値から演算またはテーブル等により巻代値が設定されるようにしても良い。

【0035】

【発明の効果】以上説明した通り本発明は、極めて簡単な操作により各種の電源コードの太さに合致する巻代を形成することを可能とするとともに、各コードに対して取付易いコード用ラベルを作成可能なコード用ラベル作成装置を提供することができ、その奏する効果は大である。

【図面の簡単な説明】

【図1】テープカセット収納部の収納カバーを開けて示すラベル作成装置の平面図である。

【図2】カセット収納部にテープカセットを収納した状態を示す平面図である。

【図3】ラベル作成装置の制御ブロック図である。

【図4】RAMの内容を模式的に示す説明図である。

【図5】ラベル作成装置の基本制御プログラムのフローチャートである。

【図6】ラベル作成装置の印字制御プログラムのフローチャートである。

【図7】図7(A)は巻代の左側にテキストを印字し、巻代の中間位置に直線を印字した印字サンプルを示す説明図である。また、図7(B)は図7(A)の印字サンプルに加えて、巻代の右側にテキストを印字した印字サマ

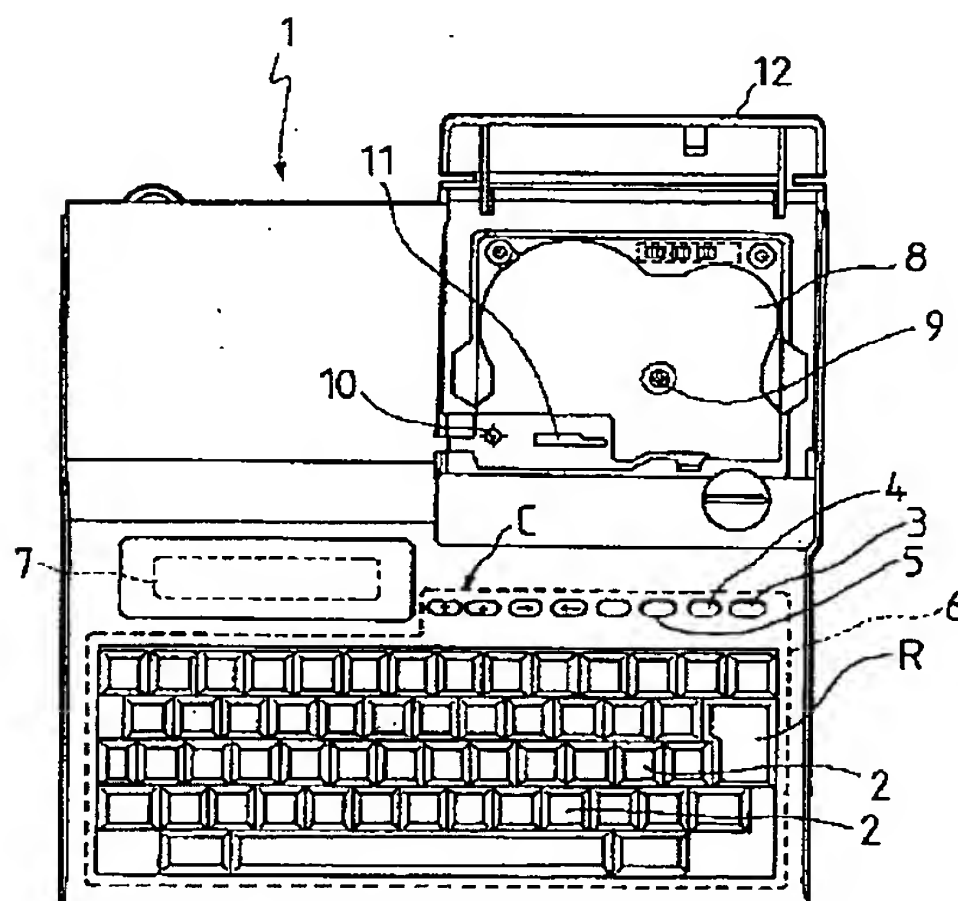
* ンブルを示す説明図である。

【図8】コード用ラベルの使用法を示す説明図である。

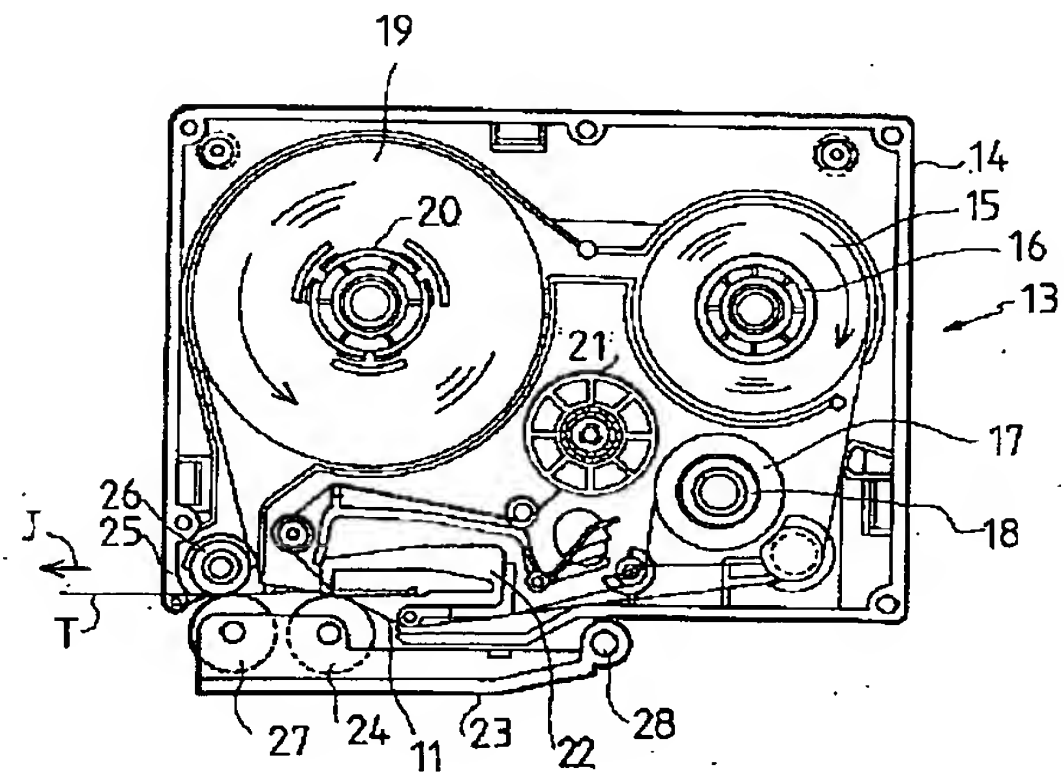
【符号の説明】

1	ラベル作成装置
2	文字入力キー
3	印字キー
4	印字モード切換キー
5	選択キー
6	キーボード
7	液晶ディスプレイ
11	サーマルヘッド
30	制御装置
31	CPU
32	ROM
33	CGROM
34	RAM
41	テキストメモリ
42	イメージバッファ
43	印字バッファ
44	巻代メモリ
45	通常印字フラグ
46	ラベル印字フラグ
47	テキストモードフラグ
48	印字モード表示フラグ
49	コード種類表示モードフラ
グ	

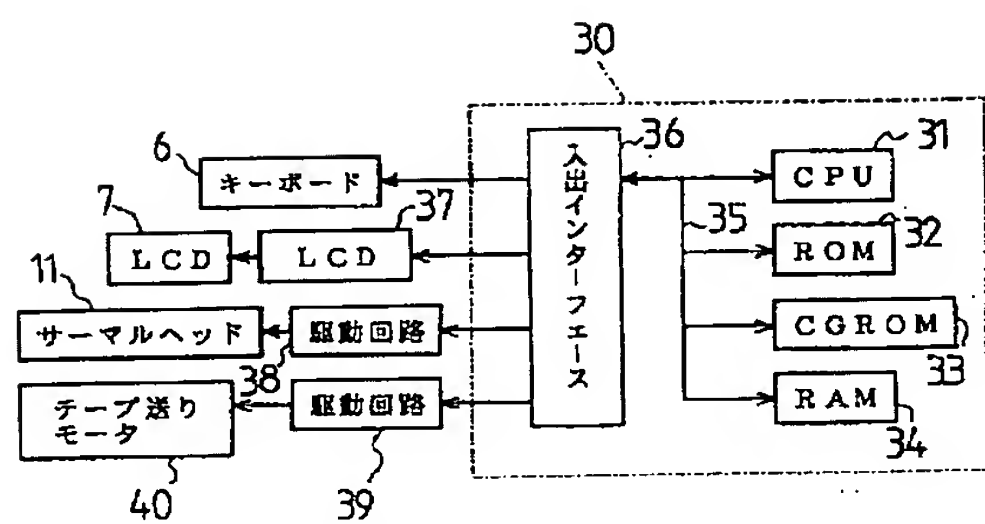
【図1】



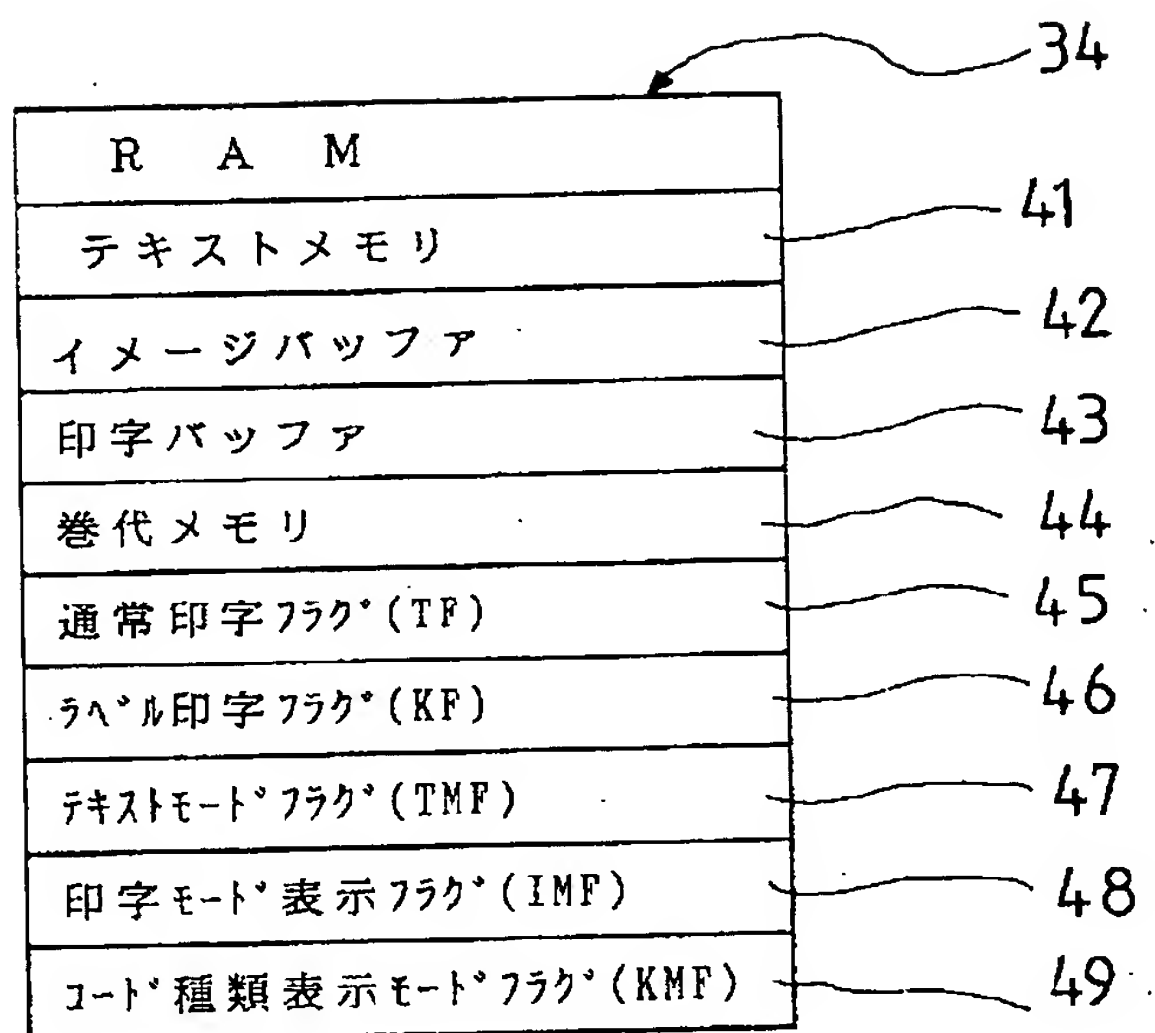
【図2】



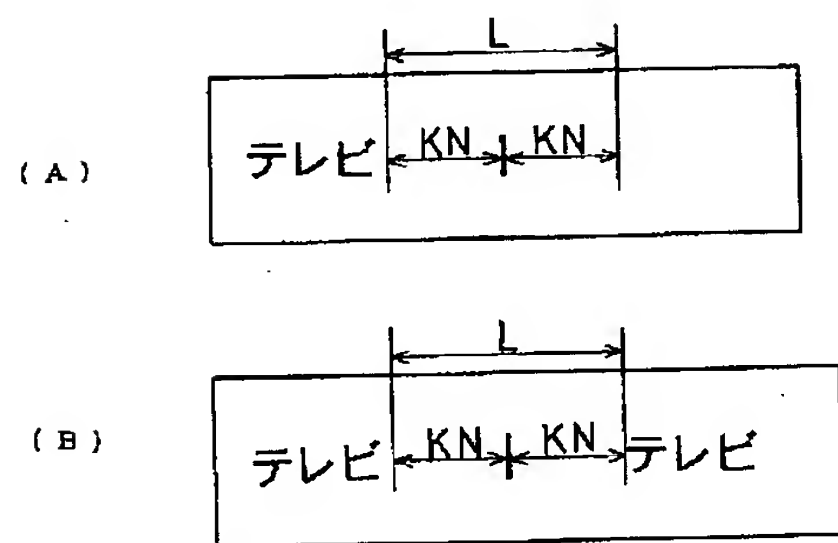
【図3】



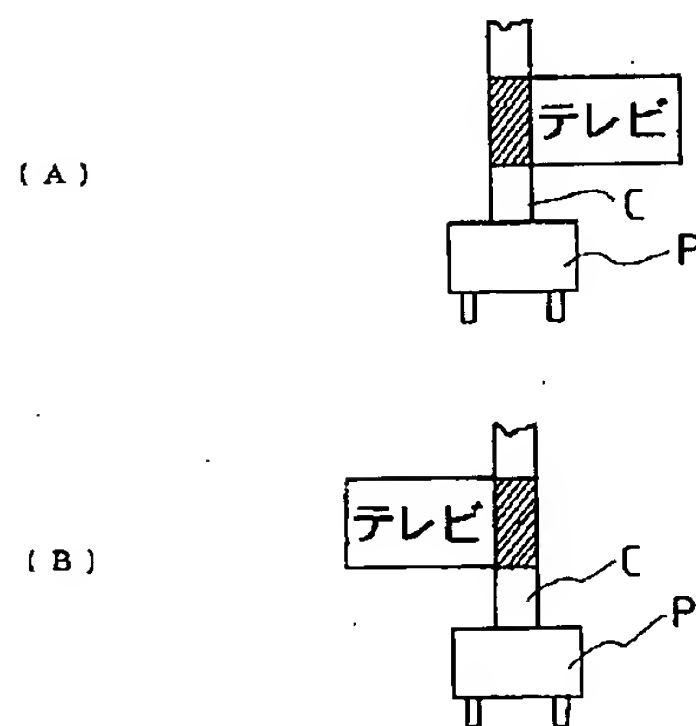
【図4】



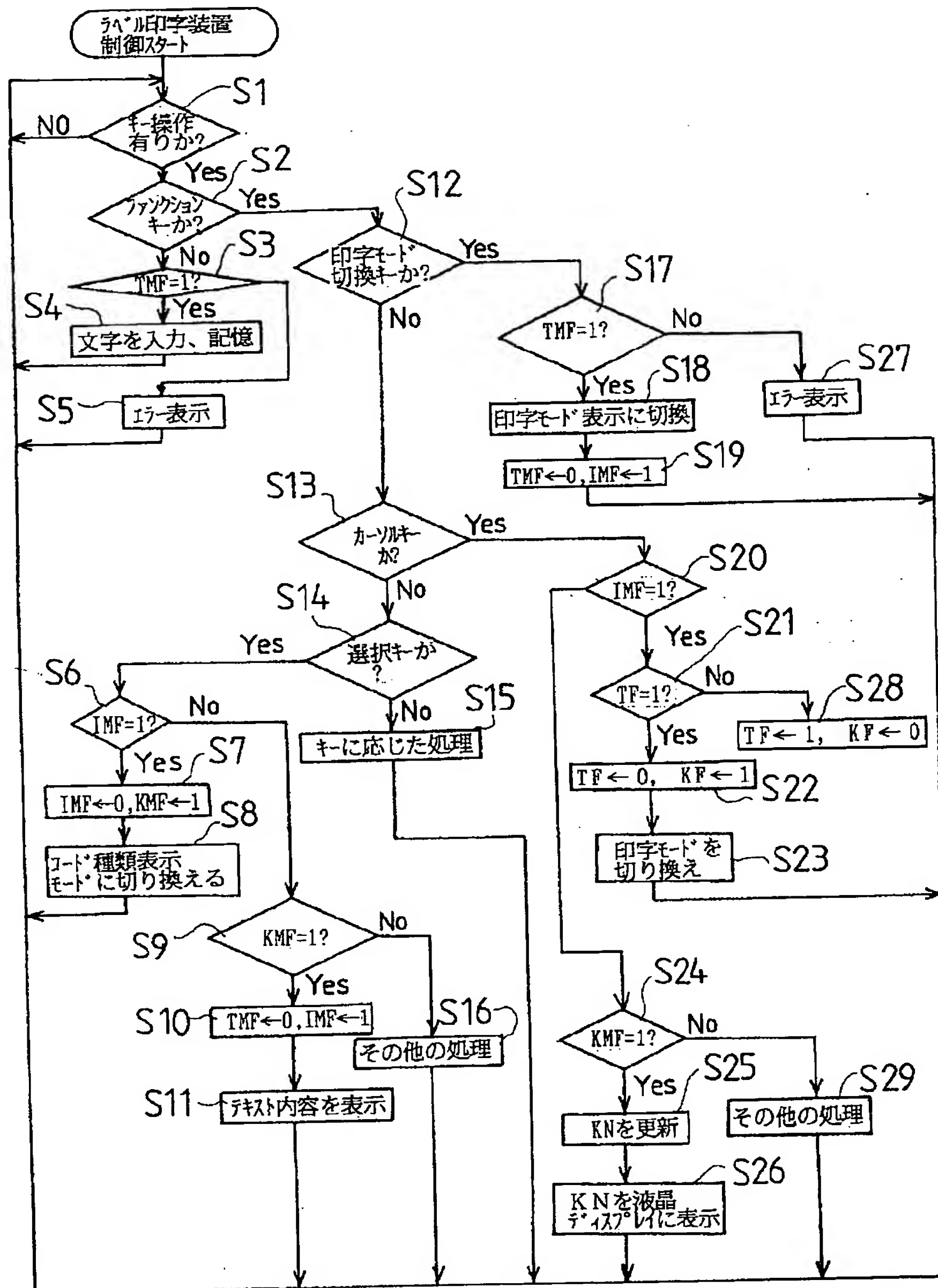
【図7】



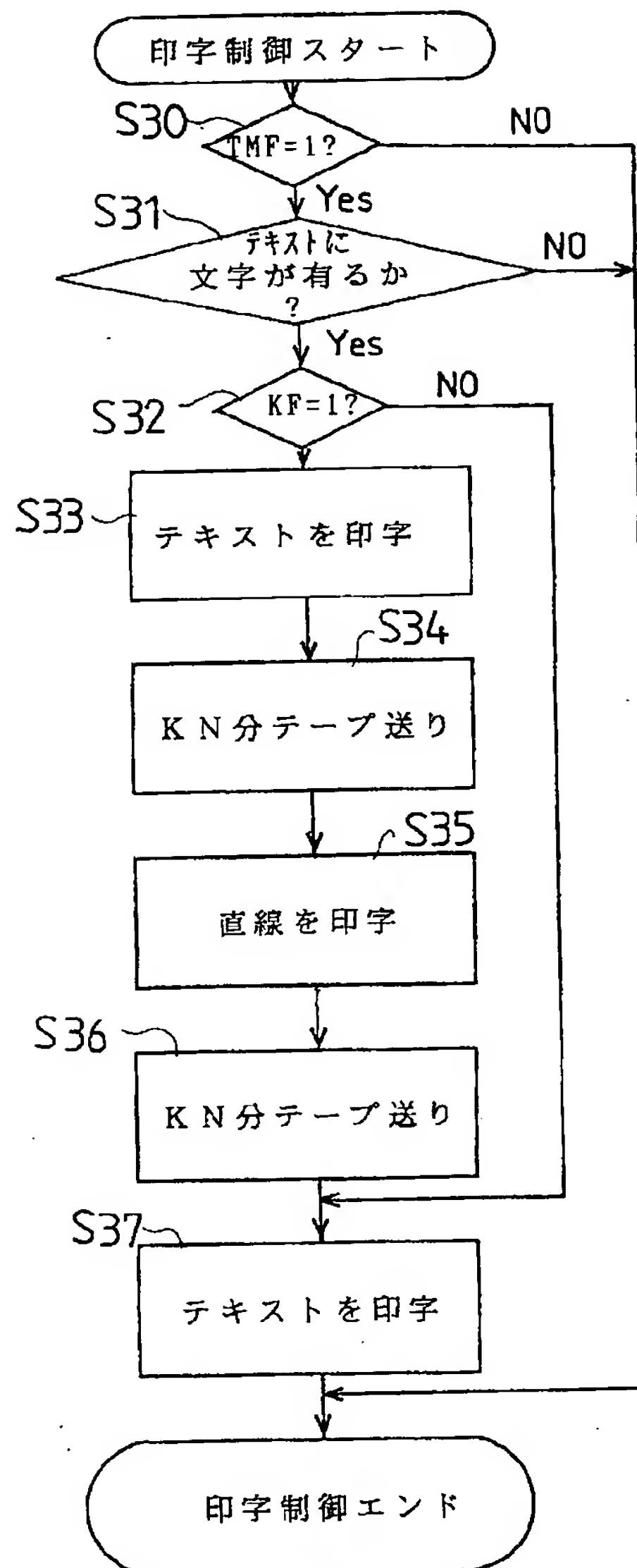
【図8】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.³
B 6 5 C 9/46

識別記号 庁内整理番号
9146-3E

F I

技術表示箇所